

## ハーバート・G・ポンティングと富士山

## 新規収集資料「Japan through the stereoscope」をめぐって

&lt;静岡県富士山世界遺産センター 学芸課 准教授 井上 卓哉&gt;

幕末から明治時代にかけての時期には、外交官・宣教師・技術者・旅行家・ジャーナリストといった、それまでの日本人がほとんど接することがなかった外国人が数多く来日しています。彼ら(彼女ら)と交流することでもたらされた様々な知識は、日本の近代化に大きな役割を果たしました。そして、そうした外国人の中には、自らの滞在中に見聞したことを日記や絵画、そして写真にとどめ、それを母国で旅行記や論文などの形で発表する者もいました。こうした媒体をとおして、当時の多くの外国人にとっては「知られざる国」であった日本の実像が世界に伝えられていったのです。

その一つに、1910年にロンドンで出版された『In Lotus-Land Japan』という書籍があります。Lotusとは仏教において「聖なるもの」の象徴とされる蓮を意味し、この作品の題名を日本語に訳すと『聖なる国、日本』となるでしょうか<sup>[1]</sup>。

この書籍を記したのは、イギリスの写真家、ハーバート・G・ポンティング(1870-1935)。(写真1:ハーバート・G・ポンティング(パブリック・ドメイン))1910年のスコット隊の第二次南極探検に同行し、記録写真を撮影した写真家としても知られていますが、それに先立つ1901年に日本に初来日し、以降1903年から1906年にかけて毎年日本を訪れ、日本中を旅して各地で写真を撮影しています。

彼に最初に日本における撮影を依頼したのは、アメリカでUniversal Photo Art Companyを営んでいたC.H.Graveとされています<sup>[2]</sup>。Graveは当時欧米で大流行していたステレオ写真の題材として日本を選び、ポンティングを雇い、日本へ派遣したのです。



写真1

ステレオ写真とは、人間の右目と左目で見える像がわずかに異なっていることを利用して実体視を可能にしたものです。わずかに角度をずらして撮影した2枚の写真を並べ、それぞれを左右の目で別々に見ることによって、1枚の画像だけでは得られない奥行きの情報を知覚することが可能となります。当時の欧米では、ステレオスコープという専用のビューワーとともに、世界各地の風景や風俗をとらえたステレオ写真を貼り付け、裏面に解説を記したステレオカードをセットにしたものが専門の業者から数多く販売され、自宅に居ながらにして世界旅行を楽しむことができたのです。その後、ポンティングはUnderwood & Underwood社に雇われ、1903年の春から秋にかけて撮影の旅をおこなっています<sup>[3]</sup>。翌年には、同社から「Japan through the stereoscope」という、ステレオ写真を100枚セットにした商品が販売されてますが、そのうちの90枚以上の写真について、この撮影の旅でポンティングが撮影したものであると明らかになっています<sup>[4]</sup>。

幕末・明治の古写真研究家であるテリー・ベネットによると、令和4年度に静岡県富士山世界遺産センターで新たに収集した「Japan through the stereoscope」は、「現在市場に流通するステレオ写真の中において、当時のリアルな日本を捉えた、最もよく知られたセットである」と評価され<sup>[iv]</sup>、多くの外国人にとって、このセットが当時の日本の実像を知るための重要な資料の一つであったことが窺えます。(写真2:「Japan through the stereoscope」とステレオビューワー)



写真2

さて、このセットには、富士山を撮影したステレオ写真が以下の5枚収納されています(邦題は筆者による)。

(14) Snow-capped Fuji, the superb, (12,365 ft.) mirrored in the still waters of Lake Shoji - looking S.E.- Japan(鏡のような精進湖の水面に映る富士山)(写真3)



写真3



(15)Glorious Fuji, beloved by artists and poets, seen from N.W. through pines at Lake Motosu, Japan(芸術家や詩人に愛された富士山を本栖湖から望む)(写真4)



写真4

(16)-3855- Pilgrims, at the end of their weary ascent, in worship encircling the crater of sacred Fujiyama, Japan(厳しい登山の後、お鉢を巡る巡礼者たち)(写真5)



写真5



(17) Peering from the lava-encrusted rim down into sacred Fujiyama's vast, mysterious crater, Japan (廣大で神秘的な富士山の火口をのぞき込む人々) (写真6)



写真6

(18) Two mile above the clouds - from summit of Fujiyama N.E. over Lake Yamanaka, 10 miles away, Japan (雲上の富士山頂から10マイル先にある山中湖を眺める) (写真7)



写真7



これらの写真は、ポンティングが1903年の9月におこなった富士登山の前後に撮影されたものと考えられます。なかでも、写真5から7までの3枚は富士山の山頂付近で撮影されたものですが、同時期に富士山の山頂付近で撮影された写真はわずかしか確認されておらず、当時の富士登山の習俗や状況を知る貴重な資料といえるでしょう。さらに、それぞれの写真の裏側の解説文には、富士山の基本的な情報だけでなく、噴火の歴史・当時の富士山に対する信仰観・登山の際に留意すべきことなどが詳細に記されており、ステレオ写真で世界旅行を楽しむ人々の臨場感は一層高まっていたはずで

また、「Japan through the stereoscope」のセットには含まれていませんが、以下にご紹介するポンティング自身が写っていると思われるステレオ写真も確認されています。(写真8:(16) 3841

Ascending the steep snow-covered Upper Slopes of Fujiyama (12,935ft) S to Suruga Bay, Japan  
筆者蔵)ポンティングは『In Lotus-Land Japan』の中で、1903年の登山の際には、3人の強力を雇い、東京の若い日本人画家が同行したと記しており<sup>[v]</sup>、その道中で撮影された一枚の可能性は十分に考えられます。



写真8

『In Lotus-Land Japan』には、ポンティングは日本に初めて来たときから富士山の姿に夢中になり、富士登山を実施したいという希望をもっていたとあり、2度の富士登山を実施しています<sup>[vi]</sup>。滞在中の体験をまとめた自らの著作の中には、詳細に富士登山の記録を記すと共に、美しい富士山の写真が掲載されています。さらに、1905年に当時の日本を代表する写真家の一人である小川一真が日本国内向けに発行したポンティングの写真集、『Fuji San』にも、多くの富士山写真が採用されており、ポンティングの富士山に対する強い思い入れを伺い知ることができるのです。

こうした思い入れを込めて撮影された富士山は、ステレオ写真に収められ、世界中の人々の手に渡りました。ステレオビューワーを使ってリアリティのある富士山を眺めた人々は、ポンティングが富士山を眺めて抱いた感動を共有したことでしょう。

本年4月29日から7月3日まで開催を予定している「富士山世界遺産登録10周年記念展 美と祈りの霊峰 富士山」展では、「Japan through the stereoscope」に収納された富士山のステレオ写真もご紹介する予定です(展示期間:6月10日～7月3日)。ポンティングの感動を皆さんも共有してみませんか。

<sup>i</sup>本書については、長岡祥三が翻訳した訳書、『英国特派員の明治紀行』（新人物往来社）が1988年に出版されている。訳書の出版にあたり、長岡は「In Lotus-Land Japan」を「この世の楽園、日本」と訳している。

<sup>ii</sup>Bennett, Terry 2006 "Old Japanese photographs:collectors' date guide" p575

<sup>iii</sup>Bennett, Terry 2006 "Old Japanese photographs:collectors' date guide" p579

<sup>iv</sup>Bennett, Terry 2006 "Old Japanese photographs:collectors' date guide" p577

<sup>v</sup>Bennett, Terry 2006 "Old Japanese photographs:collectors' date guide" p449

<sup>vi</sup>Herbert G. Ponting 1910(1985) "In Lotus-land Japan" p.209および、H・G・ポンティング・長岡祥三 訳 2005 『英国人写真家の見た明治日本』p.232

<sup>vii</sup>Herbert G. Ponting 1910(1985) "In Lotus-land Japan" p.170および、H・G・ポンティング・長岡祥三 訳 2005 『英国人写真家の見た明治日本』p.194

